

## 2018年3月期の業績について

## ■ 損益の状況

2018年3月期連結決算において、有価証券利息配当金の増加等を要因とする資金運用収益の対前期比12億円増加、役員取引等収益の対前期比8億円増加、国債等債券売却益の減少等を要因とするその他業務収益の対前期比21億円減少、さらに貸倒引当金戻入益の減少、金銭の信託運用益の前期計上等によるその他経常収益の対前期比6億円減少等により、経常収益は対前期比7億円減少して703億円となりました。

経常費用は、資金調達費用の対前期比の2億円減少、国債等債券売却損の減少等を要因とするその他業務費用の対前期比16億

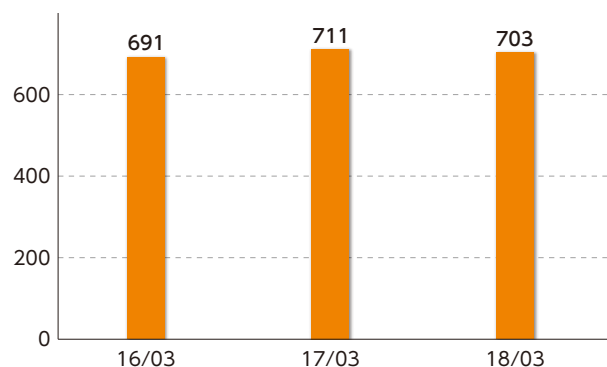
円減少と営業経費の対前期比10億円減少、その他経常費用の対前期比4億円増加等により、対前期比25億円減少して525億円となりました。

以上により、経常利益は対前期比18億円増加し、178億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、対前期比17億円増加し、176億円となりました。法人税等合計が対前期比6億円増加し、親会社株主に帰属する当期純利益は対前期比10億円増加し、124億円となりました。

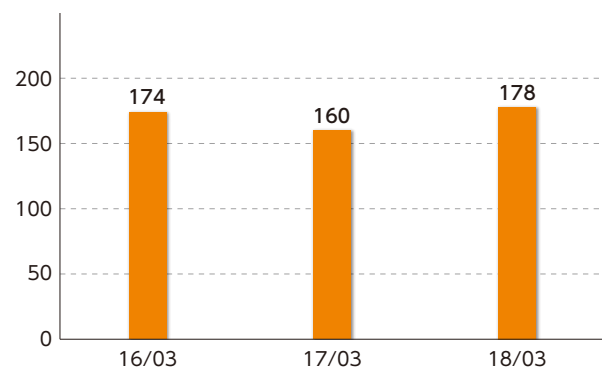
経常収益(連結)

(億円)



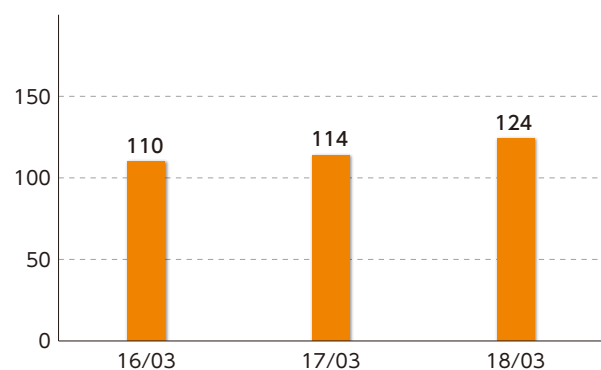
経常利益(連結)

(億円)



親会社株主に帰属する当期純利益(連結)

(億円)



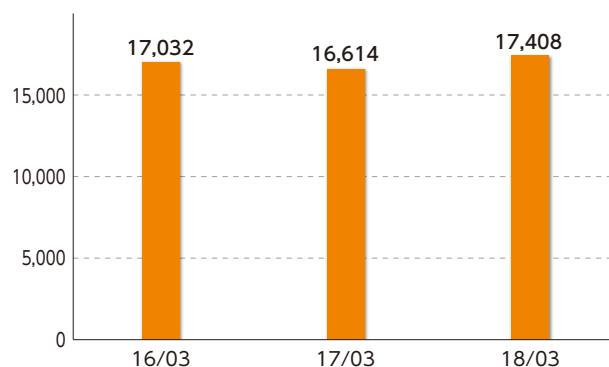
### ■ 財政の状況

2018年3月期において、貸出金の当期末残高は、中小企業向け融資が増加したことを主因として、1兆7,408億円となり、対前期比793億円の増加となりました。

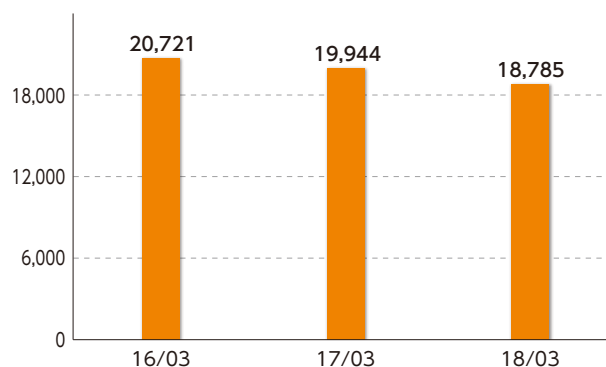
有価証券については、当期末残高は3,348億円となり、対前期比186億円の増加となりました。

預金残高は、当期末残高で1兆8,785億円となり、対前期比1,158億円の減少となりました。個人預金については、対前期比10.6%減少して1兆6,144億円となり、総預金に占める割合は85.9%となりました。

貸出金残高(連結) (億円)



預金残高(連結) (億円)



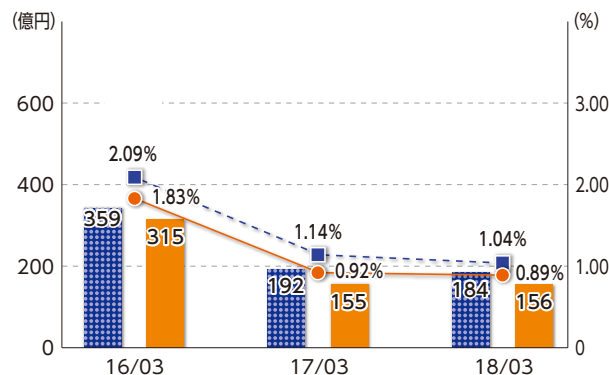
### ■ 不良債権比率

2018年3月期末現在における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却\*を実施しなかった場合には対前期末比0.1%改善し1.04%、部分直接償却を行った場合には対前期末比0.03%改善し0.89%となり、低い水準を維持しています。

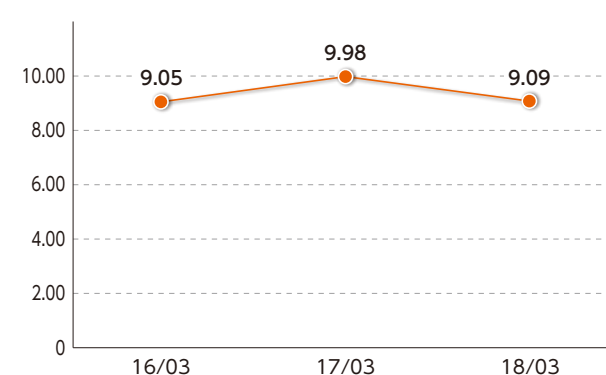
### ■ 自己資本比率

2018年3月期末の連結自己資本比率は9.09%となりました。当行ならびに当グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)



自己資本比率(国内基準、連結) (%)



部分直接償却\*を実施しなかった場合 部分直接償却\*を実施した場合  
 不良債権比率 不良債権残高 不良債権比率 不良債権残高

\*部分直接償却とは

破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。